

ISO/TC20/SC10「航空宇宙用流体系統及び構成部分」

第50回国際会議報告

令和6年（2024年）11月14日、ISO/TC20/SC10「航空宇宙用流体系統及び構成部分」技術委員会第50回国際会議が開催されたので、その概要を報告する。

1. はじめに

ISO（International Organization for Standardization、国際標準化機構）は、様々な重要技術分野において国際的な標準化や規格策定を推進するために1947年に設立された、スイスのジュネーブに本部を置く国際機関であり、2024年現在172ヶ国が参加している。ISOには272のTC（Technical Committee、技術委員会）が設置されている。

その中で航空機および宇宙機に関する国際規格を扱うTC20は、国際投票権を有する

17ヶ国（Pメンバー国）と投票権を持たない28ヶ国（Oメンバー国）から構成され、下部組織として11個のSC（Sub Committee、分科委員会）を有している。

主に航空機を中心とした燃料・油圧等の流体系統および構成部分に関する標準化を進めているSC10は、Pメンバー12ヶ国とOメンバー12ヶ国で構成されており、6つのWG（Working Group、作業部会）に分かれて活動している。（下表参照）

表. ISO/TC20の構成およびSC10の活動範囲

ISO	議長国	幹事国	部会長	日本の参加地位
TC 20 航空機および宇宙機	アメリカ	アメリカ		P
SC 1 航空宇宙電気系統の要求事項	中国	中国		P
SC 4 航空宇宙ボルト、ナット	ドイツ	ドイツ		P
SC 6 標準大気	ロシア	ロシア		不参加
SC 8 航空宇宙用語	ロシア	ロシア		不参加
SC 9 航空貨物及び地上機材	フランス	フランス		O
SC10 航空宇宙用流体系統及び構成部分	ドイツ	ドイツ		P
WG 1 シール及びシールリテーナ			ロシア	
WG 3 チューブ及びチューブ・リテイニング機器			ドイツ	
WG 6 固定配管用カップリング			ドイツ	
WG 8 油圧流体及び流体汚濁管理			フランス	
WG 9 油圧作動装置			ドイツ	
WG14 ホース・アセンブリ			アメリカ	
SC13 宇宙データ及び情報転送システム	日本	アメリカ		P
SC14 宇宙システム及び運用	アメリカ	アメリカ		P
SC16 無人航空機システム	アメリカ	アメリカ		P
SC17 空港インフラ	アメリカ	アメリカ		P
SC18 材料	中国	フランス		O

2. 会議概要

TC20/SC10第50回国際会議はドイツのベルリンにおける対面方式とWebexを活用したオンラインのハイブリッド形式で開催され、日本からはSC10国内委員会の金澤委員（株式会社IHI）と日本事務局の原野がオンラインにて参加した。

会議概要は次の通り。

(1) TC20/SC10ステータス報告

昨年の第49回会議の議事録確認の後、国際事務局よりSC10委員会のステータスに関し、2024年はPメンバーであったカナダが脱退し、モンゴルがOメンバーからPメンバーに変更となったことから、Pメンバー国12ヶ国、Oメンバー国12ヶ国となった旨の報告があった。

2016年から2024年までの9年間、SC10国際議長を務めたUlrich Müller氏（ドイツ、Airbus社）が退任することとなり、後任として2030年までの6年間、Ronny Gess氏（ドイツ、Airbus社）が就任することとなった。

(2) SC10活動状況報告

ア. WG3

ISO 12（Aerospace - Pipelines - Identification）の改訂に関し、2025年7月までにDIS投票を完了させることで合意。プロジェクト・リーダーとしてRonny Gess氏が牽引することとなった。

また、ISO 18487-1（Aerospace series - Titanium tube for 35 MPa operating pressure - Part 1: Inch series）の改訂については、2025年1月にFDIS投票を実施できるよう準備することで合意された。プロジェクト・リーダーはMichael Rappitsch氏（ドイツ）。

イ. WG6

ISO 6772（Aerospace - Fluid systems - Impulse testing of hydraulic hose, tubing and fitting assemblies）の改訂に関し、2025年7

月までにDIS投票を完了させることで合意された。プロジェクト・リーダーはこちらもRonny Gess氏となった。

また2027年末までの間、Ronny Gess氏はWG6の部会長としても就任することとなった。

ウ. WG9

2027年末までの間、Björn Altwicker氏（ドイツ）がWG9の部会長として就任することが合意された。

エ. WG14

SC10委員会は、WG14からの勧告を承認し、時間的制約によるプロジェクトISO 8913規格の開発をキャンセルし、別途改訂を行うことで合意した。（キャンセル日は2024年11月20日付け）

ISO 8913改訂は2025年7月までにDIS投票を完了させ、プロジェクト・リーダーとしてShadrach Nanney氏（アメリカ）が就任した。

また、2027年末までの間、Shadrach Nanney氏がWG14の部会長にも就任することが合意された。

(3) 次回の第51回国際会議の開催時期および場所について

来年のSC10国際会議の時期と場所は、次の通り決定された。

【開催時期】：2025年11月11日（火）～13日（木）

【開催場所】：イギリス、フランス、ドイツから選ぶ（渡航費の問題等があり、今後はヨーロッパ圏での開催となる）。

3. 所感

SC10国際会議の開催場所については、一昨年に日本開催の打診を受けていたものの開催直前になって議長および事務局の渡航費事情からキャンセルとなった経緯があるが、結局、今後は英仏独3ヶ国の持ち回り開

催に落ち着いた。日本としては残念ではあ を得ない。
るが、これも欧州主体のISO会議と認めざる

〔(一社) 日本航空宇宙工業会 業務部 部長 原野 清隆〕



この事業は、オートレースの
補助を受けて実施したものです。
<http://hojo.keirin-autorace.or.jp>